

ゴミをへらす

じゅんがんだしゃがい
循環型社会

このページではゴミをへらし、限りある資源をくり返し利用する循環型社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

じゅんがんだしゃがい
循環型社会を歩く



商社の取り組み

循環型社会を実現(じつげん)するために

○ ユニフォームのリサイクル

オフィスや販売店、工場などで使用されるユニフォーム。近年は資源や環境のことを考え、リユース、リサイクルする企業(きぎょう)が増えています。商社では、古いユニフォームの回収(かいしゅう)から、新しいユニフォームや別の製品への再生までをすべて行う総合的(そうごうてき)なリサイクル事業(じぎょう)を行っています。また、使用済みユニフォームを修理(しゅうり)して管理(かんり)し、必要に応じて出荷(しゅつか)するリユース事業など、ユニフォームのさまざまな再利用に取り組んでいます。



ユニフォームはリサイクルに最適(さいてき)な衣類(いるい)

一般的な衣類(いるい)にはたくさんの種類(しゅるい)があり、同じ素材でつくられた物を集めることも非常にむずかしいため、資源として利用するのは大変です。しかし、ユニフォームなら、同一の素材で大量に同じ種類の物がつくられていて、まとめて回収(かいしゅう)することもできるため、効率(こうりつ)よくリサイクルできます。全国で同じユニフォームを使用する企業(きぎょう)などから、古いユニフォームを回収してリサイクルすれば、大幅な資源の節約(せつやく)につながります。

4種類あるユニフォームの再利用方法

ユニフォームの再利用には、やぶれた箇所(かしよ)などを直し、クリーニングして利用する「リユース」のほか、ユニフォームを原料にしてカーペットやクッションなど別の製品をつくり出す「マテリアルリサイクル」、ユニフォームを化学分解(かがくぶんかい)し、原料である繊維(せんい)の段階(だんかい)までもどす「ケミカルリサイクル」、ユニフォームを燃料(ねんりょう)として燃やし、その熱エネルギーを利用する「サーマルリサイクル」の4種類の方法があります。

■ユニフォームの再利用方法



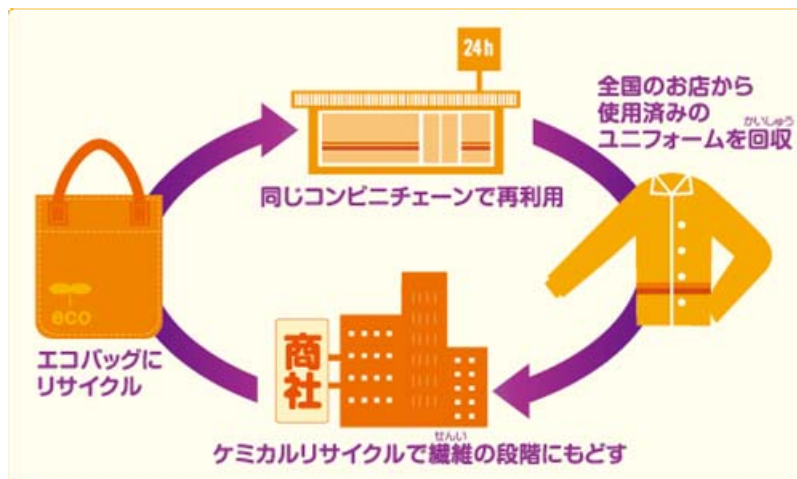
再利用法	特徴
リユース しゅうり 修理、クリーニングのみを行い、再利用する。	ユニフォームに加工 かこう などを行わないため、環境にもっともやさしい。
マテリアルリサイクル カーペットやクッションなど違う製品の原料にする。	環境に対する影響も少なく、どんなユニフォーム素材でも対応できる。
ケミカルリサイクル かがくぶんかい せんい たんがい 素材を化学分解し、繊維の段階までもどす。	リサイクルできる素材は限定 げんてい されるが、何度でもリサイクルできる。
サーマルリサイクル なんりょう 燃料として利用する。	ほとんどのユニフォーム素材に対応できる。そのまま焼却 しょうきやく する場合と固形燃料に加工 かこう して焼却する場合がある。

(クリックで大きくなります)

商社が行っている「ユニフォームのリサイクル」

コンビニエンスストアにおいて、古いユニフォームを回収かいしゅうした後、ユニフォームの繊維せんいからエコバッグをつくり、コンビニで再利用してもらいリサイクルシステムをつくりあげました。また、使用済みのユニフォームを修理しゅうりして保管ほかんし、必要に応じて出荷しゅつかするリユースシステムのサービスも提供ていきょうしています。そのほか、回収したユニフォームを原料にもどし、製鉄せいてつメーカーで鉄をつくるときに使用する薬剤やくざいとして再利用する、ケミカルリサイクルなども行っています。このように商社は、これまで大量に捨すてられてきたユニフォームをリサイクルするしくみをつくることで、資源の大幅な節約せつやくを実現じつげんしています。

■ユニフォームリサイクルの一例



(クリックで大きくなります)

▲ページの先頭へ